

新会員獲得年間200社

必達のため、全力で取り組む!!

～新体制での正副部会長・委員長と正副会頭が懇談～

正副会頭と正副部会長との懇談会(参加者31名)を11月11日に、同じく正副委員長との懇談会(参加者26名)を11月25日に開催しました。いずれも改選後の各部会・委員会の方針について発言をいただいた後、意見交換を行いました。両懇談会において福田会頭は「3期目に入り、情報発信機能を一層充実させ、会議所の『プレゼンスの向上』と『活動の見える化』に結びつけていきたい」と所信を述べ、新規会員の入会が伸び悩んでいる中、「これまで14年連続で達成してきた年間新規加入200社以上を必達するため、これまで以上のご協力をお願いしたい」と協力を要請しました。各部会・委員会の今後の活動方針の概要は以下の通りです。



商業部会

業種・業態・事業規模が幅広い業種の部会員構成を踏まえ、会員の事業活動に役立てるような講演会・セミナーを開催したい。

工業部会

部会員が500社を超えるよう、部会員に未加入事業者の紹介・入会を働きかける。HP「技の蔵」サイトの抜本的リニューアルを検討する。

建設・不動産部会

オリンピック後の動向に注目して情報提供に努めたい。視察見学会は、首都圏を中心にオリンピック関連施設や再開発による最新の商業施設などを選定したい。

金融部会

国が標榜しているSociety5.0の進展により社会・経済環境がどのように変化をしていくのかという観点から、将来を考えるヒントとなるような講演会を開催したい。

輸送部会

陸海空の旅客・貨物の立場でテーマを選定し、各種交通手段を連携させる次世代移動サービス「Maas」などのトレンドを取り上げるとともに、視察見学会は、IoTやAIを駆使した最先端技術の展示会や企業を選定したい。

観光部会

多言語対応をはじめとするフロント強化策やスマホからの情報を頼りに旅をする方々に対するPR方法等について情報提供していきたい。視察見学会は、最新のシステムなどを導入して誘客に成功している地域を選定したい。

情報・サービス部会

業種・企業規模を問わず取り組める身近な情報発信をテーマにしたセミナーや異業種交流を促進するため、他部会との合同視察研修会を企画したい。

教育福祉医療部会

すべての部会員に関連する「生活と健康」に焦点を当てたテーマを取り上げていきたい。視察見学会は、「生活と健康を飛躍的に改善する最新技術」を中心テーマに選定したい。

総務委員会

商工会議所活動の柱となる事業計画・予算(案)及び事業報告・決算(案)など重要事項を審査する他、パワーアップ5000推進委員会を強力にバックアップしていきたい。

企業経営委員会

税制改正における「取引相場のない株式の評価方法の見直し」についての継続要望等、地域の特性も踏まえながら、中小企業の経営にとって真に必要な事項について議論・研究を深めていきたい。

国際貿易委員会

「新潟港の活性化」を中心に、引き続き「オール新潟体制の構築」を踏まえて調査・研究を進め、必要に応じて先進地事例の視察を実施したい。

まちづくり委員会

新潟のまちにとっては、数十年に一度の大きなトピックが相次ぐ変遷の過渡期である。活力に溢れるまちの実現に向けて、様々な観点から研究と議論を行い、官民連携でまちづくりに取り組んでいきたい。

政策委員会

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の改訂が予定されており、国がSociety5.0を提唱している。こうした内容も踏まえて、交流・定住人口拡大と新潟経済の活性化に向けて事業を推進したい。

パワーアップ5000推進委員会

会員増強策についてアイデアを出し合い、5000会員の実現を目指して取り組んでいく。

国際スポーツビジネスについて

～新潟国際ビジネス研究会(木村 誠座長)～
11月21日(参加者20名)

「国際スポーツビジネス」をテーマに講演会を開催しました。はじめに、(株)東芝 スポーツ推進室 担当部長 荒木雅己 氏が、「東芝の企業スポーツへの取組」と題して講演し、プロ化により一般観客動員数が極端に伸びるケースなどを説明しました。

続いて、(株)日本政策投資銀行 地域企画部 副調査役 浅井健之 氏が、「スポーツを核としたまちづくりを担う『スマート・ベニュー』」と題して講演し、多機能複合型スポーツ施設が地域にもたらす価値と他産業との融合事例等を海外の事例を交えて解説しました。



東京モーターショー2019を視察

～輸送業部会(高橋哲哉部会長)～
10月31日(参加者6名)

東京モーターショー2019の視察見学会を実施しました。今回は、ホンダブースを訪れ、(株)本田技術研究所 ライフクリエーションセンター 商品技術戦略室 主任研究員 高嶋晋治 氏より、ホンダの取組や「未来の暮らしや技術」について説明を受けました。

高嶋氏は、「製品の性能や価格の比較競争では、断トツな価値を作れない時代になってきている。人がどういう経験・体験に価値を感じるか、それをどう提供していくかが、製造業にも求められている」と述べ、ホンダの様々な先端技術を説明しました。



食品関連小規模事業者の 販路開拓を支援

～フードメッセ in にいがた2019～
11月6日～8日(来場者数10,232名)

本州日本海側最大級の食の総合見本市「フードメッセ in にいがた2019」(主催：フードメッセ in にいがた運営会議・新潟市)に439の事業者が出展しました。

当所会員から15社が共同出展し、販路開拓に向けた自社製品のPRや、新規顧客獲得のための情報収集に努めました。

当日は出展効果を高めるために専門家を交えて、販促物の掲示や、試食の提供等についてアドバイスを行いました。

出展者からは「今まで取引実績の無かった事業所からお声掛けいただき、販路の拡大につながりそうだ」「3日間で多くの商談が成立した」などの感想・報告が寄せられました。



世界と日本の未来について語る

～村田晃嗣氏 特別講演会～
11月11日(参加者137名)

「朝まで生テレビ!」「そこまで言って委員会NP」のパネリストなど、テレビでもお馴染みの国際政治学者 村田晃嗣 氏が「世界と日本の未来～国際社会の中にある日本の課題～」と題した講演を行いました。「人口減少が加速し、国力が衰えていくことが予想される中で、今後、日本は、プライオリティーを考えながら外交問題を解決していく必要がある。諸外国の情勢、安全保障や国内政治の展開などを踏まえて行動していくことが大切である」と述べました。



庄内でガストロノミーを体感

～観光業部会(星野佳人部会長)～
11月19日(参加者20名)

JRのデスティネーションキャンペーンで注目されている庄内エリアを視察しました。庄内イタリアンの先駆けで、10月5日にデビューしたJRの新観光列車『海里』に食事を提供している「アル・ケッチャーノ」で、地元の食材にこだわった料理を楽しみ、ガストロノミーを体感しました。また、かつて料亭として栄えた「舞娘茶屋 相馬樓」では酒田舞娘の踊りを鑑賞した後、女将から建物や舞娘文化の歴史等に加え、現在4人の舞娘と2人の地方がお座敷で活躍しているとの説明を受けました。庄内藩校の致道館では、現在でも小学生の教育の場として使われている様子を見ることができました。



若者に古町の魅力を発信

～VISIONARY FURUMACHI 5TH "ENJOY"～
11月21日(参加者20名)

30歳以下の若者を対象に、トークイベント「VISIONARY FURUMACHI」を開催しました。

通算5回目となる今回は、5TH "ENJOY"と銘打ち、古町3の雑貨店 hickory03travelers 代表の迫一成氏と、ナビゲーターの立石勇生氏(FMPORTナビゲーター)によるクロストークや、参加者を交えた意見交換を行いました。

迫氏は、「『まちがこうなったらいいな』という想いが少しでもある人は、若いうちにまちづくりに取り組んでみて欲しい」と呼びかけました。

